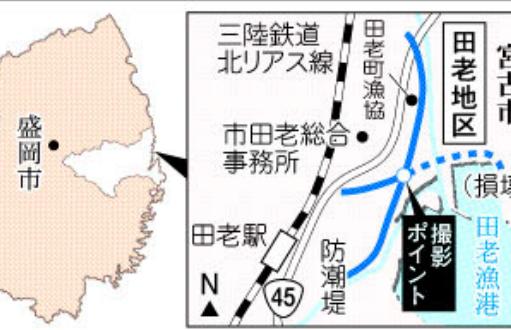


富古市田老地区の被災状況
住家・非住家含む
在住者数は136人、行方不明者は56人。田老町漁協は在籍漁船963隻のうち915隻が被災し、製氷施設や加工場など施設と生産物の被害総額は75億円に上る。



右手の海側から襲来した大津波は、巨大防潮堤を乗り越え、商店街や住宅を破壊した=3月12日、富古市田老



国道45号を旧宮古市方面から田老地区に向かって、右手の防潮林付近に高さ10m近くの大ながれきの山が見える。記者が田老中心部を訪ねたのは3月末以来。防潮堤に駆け上ると、無数のがれきは撤去され更地が広がっている。潮の香が満ちる商店街には、国道の車の通過音と海鳥の鳴き声が響いていた。

宮古市田老地区

高台移転
約1200人に上った避難生活者は高台の仮設住宅への移転が進み、52人に減少。避難所に使われた学校は授業風景が戻り、商店主や漁業者は再起に向け動きだしていた。

中心部の川向地区でガス会社を営んでいた前川邦夫さん(47)は事務所兼自宅が被災。市田老総合事務所に寝泊まりする被災者支援活動が一段落した4月中旬、田老南部の櫻内地区に仮設事務所を開設。震災前に1千件あった顧客は700件に減少。復旧作業のため従業員を2人増員。再建資金を借り入れるなど経営は厳しいが、「雇用の場を守り、過疎を防がなければ地

域は立ちゆかない」と使命感燃える。

基幹産業の漁業再建を模索する田老町漁協。田老港に面する加工場や製氷施設、漁船は収容して店頭に出す。秋サケの定置網復旧も急がなければならない」と総額20億円の投資準備を進める。

復興決意 険しくとも

東日本大震災 本紙記者ルポ

⑩



防災関係のNPO法人設立を目指す吉水誠さん(左)と大槻秀一さん(右)。町を覆ったがれきは撤去され、地域再生に向け歩み出した=6月20日

高台移転が進み、52人に減少。避難所に使われた学校は授業風景が戻り、商店主や漁業者は再起に向け動きだしていた。

中心部の川向地区でガス会

社を営んでいた前川邦夫さん(47)は事務所兼自宅が被災。市田老総合事務所に寝泊まりする加工場や製氷施設、漁船

は収容して店頭に出す。秋サ

ケの定置網復旧も急がなけ

ばならない」と総額20億円

の投資準備を進める。

1933(昭和8)年の三

陸大津波を受けて建設された

津波監視システム導入や住民

語る。

明治、昭和の大津波を克服

した田老地区。更地から始ま

る「復興への道」は険しいも

のになるだろう。しかし「自

分の代で町に必ずぎわいを

取り戻す」と前を向く前川さ

んの言葉に、困難を乗り越え

ようとする住民の情熱を見る

思いがした。

(奥州支局・熊谷宏彰)

巨大防潮堤。大津波は、かつて「万里の長城」と呼ばれた防潮堤を乗り越え、136人が乗組と共にサンマ漁船の尊い命を奪った。海側に延びる加工場や製氷施設、漁船

の尊い命を奪った。海側に延

びる部分は破壊され、土台だ

い。記憶が薄れないよう、子

や孫に伝えていく」と決意を

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東京から帰郷した放射線技師大槻秀一さん(60)は、今回の体験を後世に語り継ぎ、地域の防災対策を再構築するため、NPO法人の設立を計画する。旧田老町時代、最先端の津波監視システム導入や住民

語る。

19日に市役所を定年退職し

た吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の

津波監視システム導入や住民

語る。

吉水誠さん(60)と4月に東

京から帰郷した放射線技師大

槻秀一さん(60)は、今回の体

験を後世に語り継ぎ、地域の

防災対策を再構築するため、

NPO法人の設立を計画す

る。旧田老町時代、最先端の